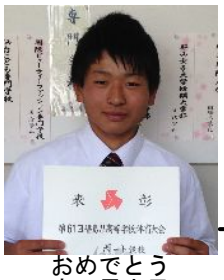
湖南高校だより
福島県立湖南高等学校
信南学園
発行責任者
校長　安倍真一郎

全国インターハイ出場決定!!!
ボート競技　男子シングルスカル
２年　吉田晃大君（湖南中出身）



おめでとう
吉田晃大君

「全国大会では、一つでも先のレースに進めるよう、精一杯漕いできます。」

全国大会：７月３０日～兵庫県豊岡市・円山川城之崎ボート場
東北大会：６月１９日～宮城県登米市・長沼ボート場

≪インターハイ出場までの軌跡≫

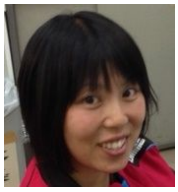
５月３０日（土）	競技１日目	男子シングルスカル	予　選Ｃ組	第１位
５月３１日（日）	競技２日目	男子シングルスカル	準決勝Ａ組	第１位
５月３１日（日）	競技２日目	男子シングルスカル	決　　勝	第１位

先月の五月三十日（土）、三十一日（日）の両日に渡り、第六十一回福島県高等学校体育大会ボート競技が、喜多方市の荻野漕艇場で開催されました。本校二年の吉田晃大君（湖南中出身）が男子シングルスカルで見事、優勝し、七月三十日（木）より開催される全国高等学校総合体育大会兼第六十一回全日本高等学校選手権大会、及び、六月一九日（金）より開催される第四一回東北高等学校ボート選手権大会兼平成二十七年度東北ボート選手権大会への出場権を得ました。

昨年度九月の福島県高等学校新人体育大会では、同種目で第三位に止まり、東北大会にも進めず残念でしたが、その悔しさをバネにした、日々の厳しい練習の成果を実らせました。なお、他にも一年生が主体の男子舵手付きクォドルプル、一年生と二年生のペアの女子ダブルスカルが出場しましたが、予選敗退となってしまいました。今後に期待します。

湖南高校ボート部十名（二年男子一名、二年女子一名、一年男子六名、一年女子二名）、顧問の伊藤恵美先生の叱咤、激励を受けながら、自分に向き合い、自分に挑戦しています。夏を乗り越え、九月の新人大会では、その結果が出せるよう頑張ってください。

伊藤めぐみ先生より



伊藤恵美先生

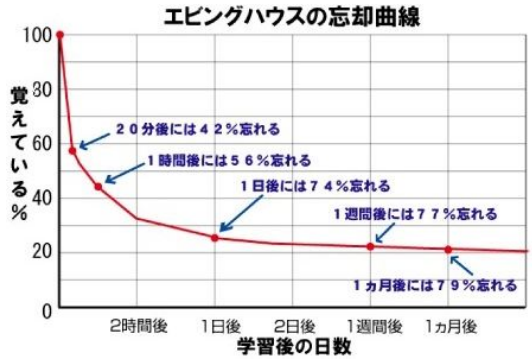
晃大、全国大会出場おめでとう。人数が少なく、一人で練習という日もありましたが、よく頑張った。結果が出て、先生もうれしいです。今年度は、一年生が八人も入部し、真耶と二人、後輩への気苦労も多かったと思いますが、まだまだです。戦いはこれからも続きます。東北、全国でも自分のベストパフォーマンスが出せるよう、これからも練習頑張ってください。私も頑張ります。

学校スローガン「可能性の発見、自分に挑戦、夢を形に」

五月二十二日（金）春の遠足（猪苗代湖畔）

天候に恵まれた、五月二十二日（金）は、毎年恒例の春の遠足が実施されました。前日までの三日間は、一学期中間考査。疲れた頭をリフレッシュ、今年も猪苗代湖畔の舟津浜が目的地です。途中、山越えもある、険しい約七キロメートルの道のりを、さわやかな汗を拭いながら、和気あいあい、目的地に向け、約一時間半かけて、歩き通しました。

舟津浜到着後は、各学年各クラスに分かれバーベキューです。三年生はそのまま舟津浜、一・二年生は舘浜に移動し、肉・野菜は当然として、趣向を凝らしたメニュー（餃子、ピザ、パンケーキ、めんたいシーフードクリームパスタなど）で、お腹も満足し、帰路につきました。生徒の皆さん、いや、歩き通した先生方も、往復約十四キロ、約三時間、本当にお疲れ様でした。来年は、五年振りに布引山をかな。



リレートーク

「記憶」について話したいと思います。

ドイツの心理学者エビングハウスは、人間の記憶は、暗記しただけなら、時間の経過とともに忘却（忘れる）するという実験結果をまとめました。これをエビングハウスの忘却曲線といいます。

つまり、人間の記憶は、復習することで、定着させていかないと時間の経過とともにどんどん忘れてしまうのです。二十分で四十二%を忘れ、一時間後には五十六%、一日経過すると実に、七十四%も忘れてしまうのです。これは、例えば、百個の英単語を一日で憶えたとしても、何もしないで一日過ぎれば、いくら暗記が得意でも七十四個もの英単語を忘れてしまうことになるのです。ですから学習の定着を図るためには、授業の内容を家庭でも復習しなくてはなりません。つまり、家庭学習の習慣化がとても重要だということです。

よく授業が終わった後に生徒のみなさんは、「今日の授業は分かった」と言います。しかし、わかったと安心して、そこで勉強をやめてしまえば、時間の経過とともに記憶は薄れ、せっかく覚えたことも忘れていってしまうのです。

その結果、考査の時に分からない、点数がとれないということになっているのです。だからこそ、毎日の家庭学習、つまり宿題を忘れずにやることが記憶の保持（忘れないこと）につながるのです。

みなさん、これを機会に毎日の家庭学習を少しずつやってみてはいかがですか。（五十嵐陽一・いがらしよういち・商業・一年Ａ組担任・一学年主任）

五十嵐陽一先生